

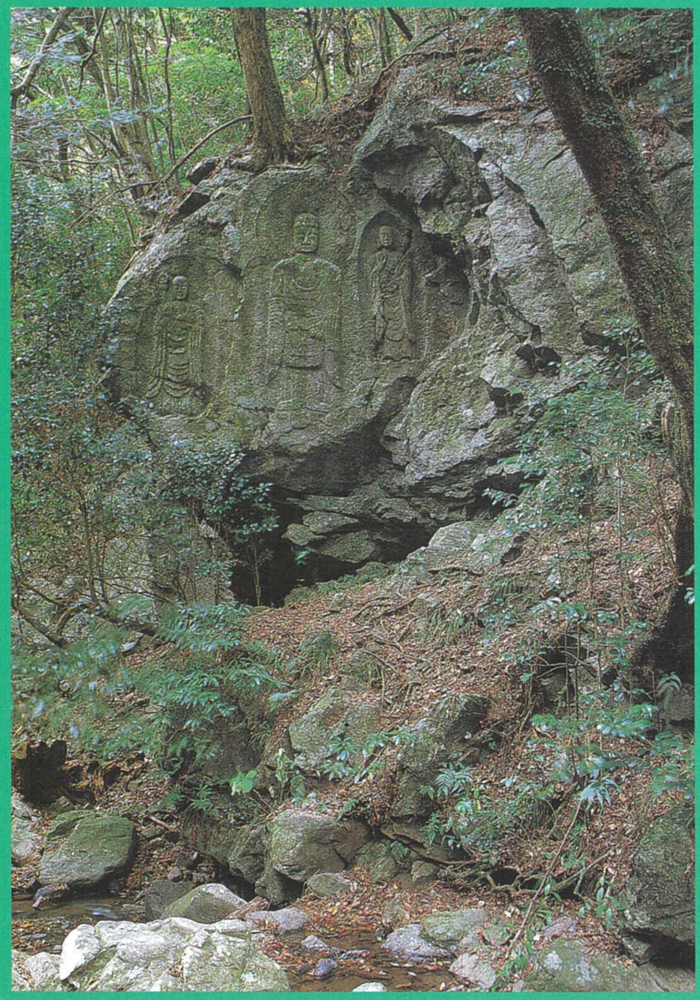
東海自然歩道



奈良県



春の苑
紅にほふ
桃の花
下照る道に
出で立つ少女
大伴家持



朝日観音



円成寺

奈良-春日奥山-柳生

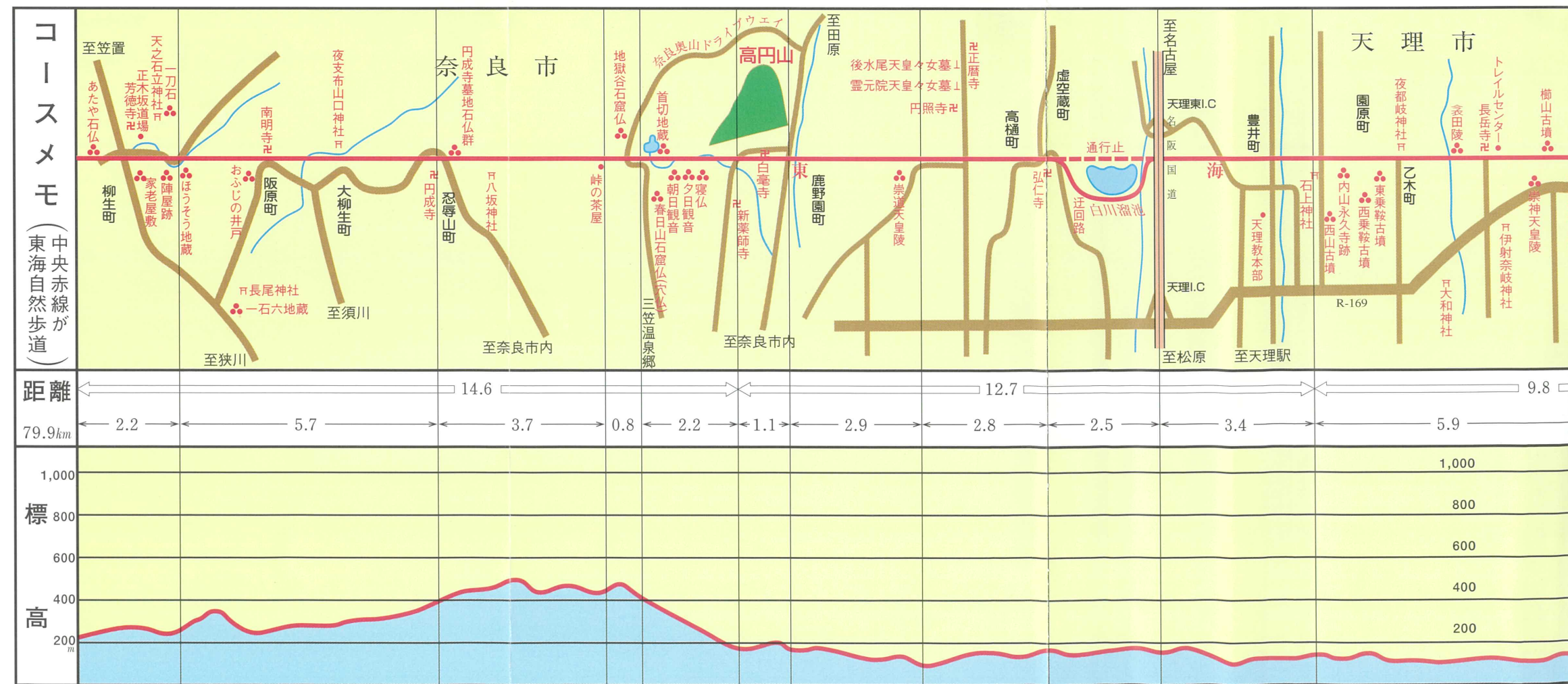
奈良、春日山の麓、天平時代の十二神将で有名な新薬師寺から山裾深く能登川沿いに登ると旧柳生街道に出る。自然歩道は、この街道を利用、石畳の坂道を春日奥山に通じている。途中、寝仏、夕日観音、朝日観音、首切地蔵をはじめ、穴仏と呼ばれる石仏群を過ぎて道は奈良奥山ドライブウェイを横切ることになる。ドライブウェイをそのまま右手に約500mあまりで地獄谷聖人窟に達するが、歩道はそのまま直進、のどかな峠の集落に入る。手前に昔の面影を止める茶店もあって楽しい雰囲気である。大慈仙への道を途中から右折、細い山道を忍辱山に向う。ここには街道沿い第一の名利、円成寺がある。運慶作による大日如来が静かな境域にどけこんでわれらの訪問に迎えてくれる。道はさらにバス道と並行して山際を辿り、南出の集落から小さな峠を一つ越えて、剣豪の里柳生に入る。途中ほうそう地蔵と呼ばれる石仏があるが、この石仏は傍らに室町時代の私徳政を宣言する銘文を刻んでいるので有名である。眼下に柳生一族の菩提寺芳徳寺をはじめ、旧家老屋敷、天之石立神社、一刀石など剣の里にふさわしい数々の遺跡がある。笠置へはここから約4キロ。



石上神宮

奈良-鹿野園-天理

新薬師寺から柳生街道への道を途中で右折して白毫寺に向う。高円山の麓を南下することになるが、この白毫寺は、珍しい五色椿と萩の寺で知られ、重要文化財に指定されている閻魔王坐像が、その眷属とともに印象的である。鹿野園、藤原を経て八島には大和三門跡寺院の一つ、円照寺があり、山村御殿とも呼ばれ、美しい静かなたたずまいをみせている。コースより少しはずれるが、ここから山手約2キロで正暦寺がある。境内付近に楓が多く、秋は特に紅葉が美しい。歩道沿いの弘仁寺は、高樋の虚空蔵さんとして親しまれている。またこの寺の本堂外陣に掲げられた江戸期の算額が珍しい。白川溜池から名阪国道を横切ると、天理教本部のある天理市である。天保9年(1838年)この地に生まれた中山美伎女によって開かれた天理教は、現在全国に約300万の教徒を有する大教団であり、蔵書90万冊といわれる天理図書館をはじめ、考古美術品や、世界各国の民俗資料を集めた天理参考館など有名な施設がある。布留の社、石上神宮の神さびた神杉は、もうすぐそこに見えてくる。



奈良県	問い合わせ先	電話番号
景観・自然環境課	奈良市登大路町30	☎0742-27-7479
奈良市観光課	奈良市二条大路南1-1-1	☎0742-34-1111
天理市商工観光課	天理市川原城町605	☎0743-63-1001
天理市トレイルセンター	天理市柳本町577-1	☎0743-67-3810
桜井市商工観光課	桜井市大字粟殿432-1	☎0744-42-9111
榛原町広報課	宇陀郡榛原町大字萩原164	☎0745-82-1301
室生村企画課	宇陀郡室生村大字大野1641	☎0745-92-2001
曾爾村企画課	宇陀郡曾爾村大字今井495-1	☎0745-94-2101
JR奈良駅	☎0742-22-7700
近鉄テレフォンセンター	☎06-6771-3105
奈良交通テレフォンセンター	☎0742-20-3100



榎原神社

天理-山の辺-三輪

大和盆地の東に連なる美しい山なみの麓、天理市内石上神宮あたりから三輪山に通じる古代の道がいわゆる山の辺のみちである。布都御魂を祀る石上神宮は、万葉集にも歌われた神々しい杉木立のなかにある。境内の布留池から内山永久寺跡、園原、乙木の集落を過ぎて菅生に入ると左手前方、民家のなかこもりと盛り上がった小丘がある。継体天皇の皇后手白香媛の衾田陵で、全長140mの前方後円墳で壮大である。上長岡には、俗に釜口大師と呼ばれる長岳寺がある。根上りの松を見て、古い山門から参道に入ると、藤原時代の鐘楼門や、藤原末期初めて玉眼を使用した弥陀三尊などみるべきものが多い。長岳寺を過ぎると堂々たる前方後円墳の崇神天皇陵、次いで景行天皇陵、西方街中には、全長272m、壮大な倭迹々日百襲姫を祀る通称箸の墓が望まれる。日本書紀によると、昼は人が造り、夜は神が造ったと記されており、邪馬台国の女王卑弥呼の墓だとも伝えられている。歩道は山際に近く穴師、車谷の集落を経て三輪山麓榎原神社に到着する。大神神社の摂社で、天照大神を祀った笠縫の地ともいわれ、このあたりから望む大和三山はひじょうに美しい。さらに山麓の道は玄資僧都の玄資庵を経て、この山をご神体とする大神神社の境内へ深い木立を縫って行く。



室生寺

三輪-初瀬-室生

旧伊勢街道に沿って長谷寺、室生寺に至る区間である。三輪明神境内を経て金屋の石仏に向う。2m余りの石板に浮彫された石仏が二体、異説が多いが、まず鎌倉初期の作品であろう。古えの交通の要点として栄え、市場や歌垣の催された海石榎市から三輪山の裾を大きくまきながらいまだに素朴な出雲人形を作る出雲の集落を過ぎるとはや長谷寺の門前町である。万葉集に「隠口の泊瀬小国」と歌われた泊瀬山と天神山の谷間に栄えた観音信仰の霊場長谷寺は、西国三十三ヶ所第八番の札所で、またボタンの名所として有名である。自然歩道は門前をさらに北上、天神山の北麓を辿りながら神武天皇鳥見霊時跡といわれる鳥見山麓を経て大和富士の別称がある額井岳(846m)の裾の墓に着く。万葉歌人として活躍した赤人も、今は苔むした五輪塔の下にねむっている。道はさらに戒長寺下を南下する。この寺は、十二神将を鋳出した梵鐘が珍しい。国道165号線、近鉄大阪線を越えると宇陀川上流に満々と水をたたえた室生ダム。ダムにかかる赤人橋を渡り対岸から室生寺旧参道を進むと播鉢型にひらけた山峡に女人高野として親しまれた室生寺の堂塔が一望できる。ここは貞観美術の殿堂である。



鎧岳

室生-済浄坊-曾爾

室生寺門前を室生川に沿って約1km遡ると、左手、うっそうとした木立のなかに、延喜式内の古社竜穴神社がある。祭神は高麗神で、古くから雨乞いの神として知られる。これよりさらに上流、宇野川橋の手前を左に、宇野川を源流近くまで遡る。ところどころに室生火山帯特有の切り立った岸壁をみることができ、やがて道は落合橋から二つに分れる。左をとれば約600mで南松の滝であるが、自然歩道はこの橋より右手へ小尾谷をつめて行く。付近には国見山-住塚山-屏風岩の健脚向きコースもある。このあたりは、神武天皇大和平定の物語に登場する八十景師の住んだ山と伝え、国見、住塚両山とも頂上帯はスキの草原となり、周囲の美しい展望が楽しめるコースは小長尾林道を済浄坊溪谷に沿って下り、やがて落差約10mの済浄坊の滝に到着する。清冽な流れは疲れを癒すに十分である。道はやがて奥香落と赤目四十八滝を結ぶ今井林道と合流する。自然歩道はこれを右手にとり、横輪川、長走の滝、やがては奇峯兜岳を望みながら養鱒場を横切って中小場、葛の集落を経て太良路に到る。



曾爾高原

曾爾-曾爾高原

奥香落の奇峯、兜岳(920m)、鎧岳(894m)はともに安山岩の柱状節理の大岸壁を露出するこの地区での圧巻であり、いずれも天然記念物となっている。自然歩道はその麓、中小場、葛を経て青蓮寺川にかかる。この下流は断崖絶壁と岩を嘯む清流の美しい香落溪で、文字通り奇岩奇勝が続いている。青蓮寺川を渡ると爪先登りの急坂が続き、やがて広漠たる大高原に達する。亀山(849m)である。一面スキの原におおわれ、高原の中央部には浅く水をたたえたお亀池がある。自然歩道は、この草原の亀山峠を越えて三重県領に入るが、峠から左手、二本ボソ山(996m)の頂上を経て、この地区での最高峰俱留尊山(1038m)へ登るコースも楽しい。頂上付近は雑木の密生する急な尾根登りとなるが、山麓のスキ原は大和には珍しい大草原であり、初秋のハイキングは特に人気である。

